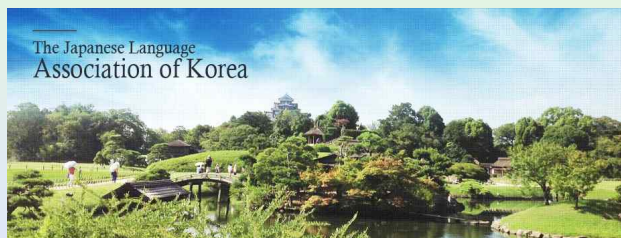


韓国日本語学会 ニュースレター [2018-02]



発行人：李吉鎔 / 編集人：朴江訓・孫榮爽・中村有里 / 発行所：韓国日本語学会 / 発行日：2018.3.20.

副学会長挨拶	1
役員名簿	2
常任理事会結果報告	6
第37回学術大会プログラム	7
『日本語学研究』論文投稿案内	19

중앙대학교 아시아문화학부 이길용 교수 연구실
〒06974 서울시 동작구 흑석로 84
中央大学校 アジア文化学部 李吉鎔教授研究室
〒06974 Seoul市 銅雀区 黒石路 84
H.P：010・9028・6609(事務局長:趙容蘭)

E-mail：jlak123@hanmail.net Homepage：http://www.jlak.or.kr

副学会長挨拶

韓国日本語学会会員の皆様



韓国日本語学会学術副会長を務めさせていただいております、
徳成女子大の盧姝鉉です。韓国日本語学会は、1999年の創立以来、
会員の皆様のご支援のおかげをもちまして、名実ともに
「日本語学専門学会」へと成長しました。この場をお借りして、
会員の皆様に改めましてお礼を申し上げますとともに、今後とも
変わらぬご関心とご支援をお寄せくださいますよう、お願い致します。

2018年の春を迎え、韓国日本語学会では、来たる3月24日、東國大学校(ソウルキャンパス)にて、
「日韓対照研究の流れと展望」という主題で第37回春季学術大会を開催致します。今回の学術大会で
は日韓対照研究分野で精力的にご活躍されている生越直樹先生をお招きし、日韓対照研究の実践と課
題について共に考える「基調講演」の場を設けました。また、国内外の研究者の多様な研究成果を
「一般発表」「企画発表」「ポスター発表」といった多彩な形で準備しました。特に、今回の学術大
会では、学会側がプラットフォームを提供し、連携協力研究会が独自に発表会場を設営する、「連携
協力研究会研究発表」の場を企画しました。学会と連携協力研究会間の交流の場を設けるための初の
試みということで、至らない点もあるかと思いますが、お気づきの点がございましたら、第10代執行部
まで忌憚ないご意見をお寄せいただければ幸いです。今後より良い学術大会を準備・企画していくた
めに、役立てさせていただきます。

第37回春季学術大会は、多くの皆様のご関心とお力添えのおかげをもちまして、開催に至りまし
た。まずは、お忙しい中、素晴らしい研究成果をご発表くださる先生方、討論・司会・座長をお引き
受けくださった先生方に心からお礼を申し上げます。また、今回「連携協力研究会研究発表」にご参
加くださる、韓国日本語研究会、韓国OPT研究会、日韓コミュニケーション研究会の会長をはじめとす
る会員の皆様に心からお礼を申し上げます。最後に、学術大会の準備にご尽力くださいました東國大
学校日本学研究所の金煥基所長、日語日文学科の先生方と学生の皆さんに心からお礼を申し上げま
す。

人生は、偶然であれ必然であれ、多くの「出会い」の連続ですが、この出会いを「大切なご縁」へ
と育んでいくためには不断の「努力」が必要です。今回の学術大会が会員の皆様にとりまして、有意
義な学術交流と意見交換の場、新たな出会いの場、大切なご縁を育む場となりますことを、心より祈
念致します。2018年3月24日、東國大学校にてお目にかかります。

2018年 3月
韓国日本語学会 第10代学術副会長 盧姝鉉

役員名簿

■常任理事

役職	氏名	所属	E-mail
会長	李吉鎔	中央大	ih_kilyong@cau.ac.kr
副会長	学術 盧姓鉉	徳成女大	chel99@hanmail.net
	研究 黄永熙	漢陽サイバー大	tohyh@hanmail.net
	教育 早矢仕智子	大真大	tomomokankoku@hotmail.com
	編集 高慧禎	カトリック關東大	nunbusida@hanmail.net
	事業企画 南得鉉	明知専門大	aruiru@hanmail.net
総務	河在必	韓國外大	hajp75@hufs.ac.kr
	全紫蓮	韓國外大	shizen9021@daum.net
財務	張允娥	中央大	willyoubehere@gmail.com
	林始恩	韓國外大	lse923@naver.com
学術	琴鍾愛	忠南大	jakeum@cnu.ac.kr
	高恩淑	韓國外大	haimosimosi@hanmail.net
	宋殷美	白石芸大	yalto0@hanmail.net
	郭銀心	京畿大	kwak5017@naver.com
編集	金義泳	徳成女大	cara202@gmail.com
	姜美善	漢陽女大	haruaki2070@hanmail.net
	辛銀真	明知大	shineunjin.kr@gmail.com
	鄭賢児	西京大	nabinabi75@naver.com
出版	方允炯	水原大	yh-bang@hanmail.net
	朴孝庚	漢陽サイバー大	phk0502@hanmail.net
情報	国生和美	東國大	kazumi0121@naver.com
	張良光	カトリック大	kwang-kana@hotmail.com
	崔恵貞	建國大	elli-c@hanmail.net
広報	朴江訓	全州大	hun0531@naver.com
	中村有里	仁川大	yoolee1220@yahoo.co.jp
	孫榮爽	濟州大	freewill1472@naver.com
国際	本多美保	梨花女大	mhonda@naver.com
	李竣瑞	聖潔大	korjs2@gmail.com
	趙宣映	培材大	sy218@pcu.ac.kr
対外協力	海外	Lee,Duck-Yong	The Australian National Univ. duck.lee@anu.edu.au
		盛文忠	上海外國語大学 swz_42281@163.com
		鄭恵先	北海道大学 jung@oia.hokudai.ac.jp
		金庚芬	明星大学 kimkb@ge.meisei-u.ac.jp
		朴秀娟	神戸大学 parksooyun@gmail.com
	国内	金照雄	時事日本語社 marketing1@korea.com
		宋恵仙	仁徳大 shs1023@induk.ac.kr
		趙恩英	啓明大 choeun215@gmail.com
		殷守希	淑明女大 esh0407@naver.com
		川口慶子	崇實大 keikochan922@hotmail.com
事業企画	企業部	尹榮珉	延世大 marchen52@naver.com
		角ゆりか	明知大 whitelily1227@hotmail.co.jp
		金志姫	カトリック大 jiheekim2002@gmail.com
	研究部	金恵娟	建國大 mahou@hanmail.net
		岩井朝乃	弘益大 asano-iwai@msc.biglobe.ne.jp
		李相怡	東國大 zzivi@hanmail.net

■一般理事 (国内：가나다順, 海外：五十音順)

<国内>		
檢校裕朗(極東大)	權寧成(清州大)	金光泰(韓瑞大)
金榮敏(同徳女大)	金平江(祥明大)	朴才煥(京畿大)
白同善(江原大)	酒井真弓(徳成女大)	迫田亜希子(ソウル女子大)
朴良順(蔚山科学大)	朴英淑(水原科学大)	成琬珂(祥明大)
孫在賢(徳成女大)	宋正植(仁荷工専)	梁敏鎬(釜慶大)
魚秀禎(啓明大)	呉琰定(建国大)	元智恩(崇実大)
李承英(光云大)	石井奈保美(聖公会大)	李忠奎(西原大)
張根寿(祥明大)	鄭起永(釜山外大)	鄭相美(新羅大)
鄭榮美(韓國觀光大)	鄭夏俊(湖南大)	蔡京希(培花女大)
蔡盛植(高麗大)	韓中瑱(U1大)	黄圭三(瑞逸大)
<海外>		
石塚ゆかり(青森大学)	磯野英治(名古屋商科大学)	李在鎬(早稲田大学)
井出里咲子(筑波大学)	宇都木昭(名古屋大学)	沖 裕子(信州大学)
荻野綱男(日本大学)	生越直樹(東京大学)	奥野由紀子(首都大学東京)
落合由治(台湾・淡江大学)	大塚 薫(高知大学)	呉 恵卿(国際基督教大学)
金 愛蘭(広島大学)	金 蘭美(横浜国立大学)	金 昂京(福岡大学)
金 廷珉(麗沢大学)	工藤真由美(大阪大学)	Daniel Long(首都大学東京)
全 永男(中国・延辺大学)	張 威(中国人民大学)	名嶋義直(琉球大学)
中井陽子(東京外国語大学)	中山亜紀子(佐賀大学)	西尾純二(大阪府立大学)
野田尚史(国立国語研究所)	許 明子(筑波大学)	深見兼孝(広島大学)
松丸真大(滋賀大学)	村上敬一(徳島大学)	羅 曉勤(台湾・銘伝大学)
森山 新(お茶の水女子大学)	山内博之(実践女子大学)	李 東哲(中国・浙江越秀外国语学院)

■監事

氏名	所属	E-mail
姜晃完	国民大	kwkang@kookmin.ac.kr
李善姬	ソウル女大	shlee@swu.ac.kr

■事務局長

氏名	所属	E-mail
趙容蘭	中央大	yclovely@nate.com
梁乃允	中央大	ynaeyun@hanmail.net

■編集委員会

委員長：李恩美(明知大)

監 事：辛銀真(明知大)

音声学 音韻論	閔光準(建國大) 孫在賢(徳成女子大) 鄭炫赫(サイバー韓国外大) 戸田貴子(早稲田大学/日本) 高慧禎(カトリック関東大)*	語用論 社会言語学	洪珉杓(啓明大) 金庚芬(明星大学/日本) 元智恩(崇實大) 荻野綱男(日本大学/日本) 生越直樹(東京大学/日本) 盧姓鉉(徳成女大) 鄭賢兇(西京大)*
通時論 形態論	權勝林(崇實大) 張根寿(祥明大) 裴銀貞(釜山外大) 金廷珉(麗沢大学/日本) Lee,Duck-Yong(The Australian National Univ./豪州) 朴江訓(全州大)*	日本語教育	落合由治(淡江大学/台湾) 李美淑(明知大) 趙英南(高麗大) 鄭相美(新羅大) 金義泳(徳成女子大)*
意味論 語彙論	塩田雄大(NHK放送文化研究所/日本) 李慈鎬(慶北大) 張元哉(啓明大) 李羽済(白石藝大) 姜美善(漢陽女子大)*	日本語史	尹幸舜(ハンパット大) 羅工洙(嶺南大) 吳美寧(崇實大) 閔丞希(中源大) 林禔映(全南大) 朴孝庚(漢陽サイバー大)*
その他 日本語学	李朱利愛(梨花女大) 盛文忠(上海外国語大学/中国) 相沢由佳(聖潔大) 鄭惠先(北海道大学/日本) 梁敏鎬(聖潔大) 辛銀真(明知大)*	◆「*」は実務担当編集委員(実務委員)、 その他は審査担当編集委員(査読委員)である。	

■研究倫理委員会

委員長	鄭相哲 (韓国外国語大学校)
委員	趙炯熙(釜山大), 鄭意祥(朝鮮大), 朴海煥(淑明女大) 金恵娟(建国大), 吉田玲子(梨花女大)

■学術研究発展委員会

委員長	洪珉杓 (啓明大学校)
委員	金敬鎬(目白大), Lee,Duck-Yong(豪州国立大学) 鄭起永(釜山外国語大), 金慶恵(仁川大), 高龍珍(済州漢拏大) 金アラン(日本・上智大学)

■学術誌発展委員会

委員長	高慧禎 (カトリック関東大学校)
委員	洪珉杓(啓明大), 朴海煥(淑明女大), 李恩美(明知大) 黄永熙(漢陽サイバー大), 朴孝庚(漢陽サイバー大)

■日本語教育発展委員会

委員長	早矢仕智子(大真大学校)
委員	金照雄(時事日本語社), 姜美善(漢陽女大), 中村有里(仁川大) 川口慶子(明知専門大), 趙宣映(培材大), 張良光(カトリック大) 奈呉真理(慶熙大), 迫田亜希子(ソウル女大)

■学会発展基金委員会

委員長	李暉洙(放送通信大学校)
委員	高慧禎(カトリック関東大), 金恩希(済州国際大) 金玄珠(ハンパット大), 朴江訓(全州大), 李竣瑞(聖潔大) 黄永熙(漢陽サイバー大), 南得鉉(明知専門大)

■学術賞選定委員会

委員長	閔光準(建国大学校)
委員	姜錫祐(カトリック大学校), 高慧禎(カトリック関東大), 盧明姫(東国大) 李暉洙(放通大), 李恩美(明知大), 李漢燮(高麗大), 洪珉杓(啓明大)

■諮問委員会

監事	姜錫祐(カトリック大学校)
委員	康仁善(聖公会大), 金玉任(誠信女子大), 盧明姫(東国大) 閔光準(建国大), 尹幸舜(ハンパット大), 李漢燮(高麗大) 趙南星(ハンパット大), 洪珉杓(啓明大), 李暉洙(放通大)

常任理事会結果報告

▲ 第10代常任理事会(2次)

日時：2018年1月13日(土)17時

場所：時事日本語社別館302号

1. 総務・事務局関連

- 2018年度学会年間運営計画確認

2. 編集関連

- 学術誌54集発刊および55集経過報告
- 投稿規定関連の話し合いおよび規定変更
 - 1) [55集より]「研究生」の投稿資格：単独著者である場合、修士学位取得後、研究生の立場にある者は投稿可
 - 2) [56集より]抜き刷りの海外発送：追加発送費用の著者負担を原則適用

3. 学術関連

- 第37回学術大会準備状況点検(発表者申し込み募集日程、会場確定 等)

4. 財務関連

- 学会財政拡充案の話し合い

5. 国際関連

- 台湾日本語学会参加者募集(2018年12月15日[予定]、輔仁大学)
- 2018年8月日中対照言語学研究会参加者募集案内

6. 情報関連

- 学会ホームページ管理状況報告(問題箇所修正、学会英文ページ準備)

7. 広報関連

- ニュースレター(2018-1)発行報告

8. 事業企画関連

- 企業部：学会広報パンフレット韓国語版・日本語版作成確認、学術賞後援金額関連の話し合い、日本就職支援日本語講座開設の話し合い
- 研究部：出版事業、日本文化探訪講演、大学生文化探訪派遣、個人および共同研究事業

9. その他

- 夏期ワークショップ日時・会場およびプログラムの話し合い

▲ 第10代常任理事会(3次)

日時：2018年2月24日(土)16時

場所：中央大学大学院301号

1. 学術関連

- 第37回学術大会準備状況細部点検(座長、司会者、討論者の交渉・決定 等)
- 韓国研究財団学術大会支援事業申し込み

2. 事業企画関連(研究部)

- 出版事業：「樹林文化叢書」出版著作原稿募集応募
- 特講企画：日韓多文化家庭教育特講、日本文化探訪講演およびこれを基にした一般向け教養書の共同執筆推進



韓國日本語學會 第37回 國際學術發表大會

< 主 題 >

한일어 대조연구의 흐름과 전망
(韓日語対照研究の流れと展望)

< 基調講演 >

日韓対照研究の実践と課題
- 名詞文の使い方を例に -
(일한대조연구의 실천과 과제)

生越直樹 (東京大学)
오고시나오키 (도쿄대학)

・日時：2018年 3月 24日(土)

・場所：東國大學校

・主催：韓國日本語學會、韓國日本語研究會、韓国OPI研究会
日韓コミュニケーション研究会

・主管：韓國日本語學會、東國大學校日本學研究所
東國大學校日語日文學科

・後援：東國大學校、日本国際交流基金ソウル日本文化センター
時事日本語社、日本語検定協會J.TEST韓國事務局
East Ambition社



韓國日本語學會
The Japanese Language Association of Korea

韓國日本語學會

第37回 國際學術發表大會

■ 日時：2018年 3月 24日(土)

■ 場所：東國大學校

< Program >

10:30-11:00	接受		惠化館 3層 Lobby
11:00-11:20	・ 開會式 <司會：河在必（韓國外大）> ・ 開會辭：李吉鎔 會長（中央大） ・ 歡迎辭：金煥基 所長 （東國大學校日本學研究所） ・ 祝辭：山崎宏樹 所長 （國際交流基金ソウル日本文化センター）		惠化館 3層 未來融合Seminar室
11:20-12:20	・ 基調講演 生越直樹（東京大学）		
12:20-14:00	中食・交流		常綠苑 3層
	Poster Session (13:00-14:00)		未來融合Seminar室
14:00-18:10	・ 企劃發表・一般發表 ・ 連繫協力研究會發表	・ 第1發表會場 ・ 第2發表會場 ・ 第3發表會場 ・ 第4發表會場 ・ 第5發表會場 ・ 第6發表會場	惠化館 337 惠化館 339 惠化館 342 惠化館 303 惠化館 304 惠化館 315
18:10-20:00	懇談會		當日案內

< 基調講演 >

11:20-12:20

[未來融合Seminar室]

司會: 郭銀心(京畿大)

日韓対照研究の実践と課題 -名詞文の使い方を例に- (일한대조연구의 실천과 과제)

生越直樹 (東京大学)

企劃発表・一般発表 【第1発表会場～第3発表会場】

第1発表会場 [恵化館 337]

■ 企劃発表・日本語教育 座長：趙南星(Hanbat大)

時間	発表者	主題	司會者
14:00 -16:00	尹盛熙 (関西学院大)	日韓の省略の違いについて －省略の個別言語的・普遍的方向性に関する試論－	生越直樹 (東京大学)
	金智賢 (宮崎大)	条件文主節の省略現象に関する日韓対照研究	
	新井保裕 (東京大)	Twitterを中心としたSNSにおける省略現象の日韓対照研究 －言語とメディアの関係を探る－	
16:00 -16:10	休息		
座長：李暉洙(放送大)			
16:10 -16:50	李暉洙 (放送大)	日本語教育における複合動詞の誤用	韓 金泰姬 (中央大) 宋殷美 (白石藝大) 崔鍾勳 (仁徳大)
16:50 -17:30	坂口清香 (韓國外大)	プレゼンテーション準備段階での 教師コメントの分析 －上級会話授業を対象に－	日 本多美保 (梨花女大) 田中洋子 (弘益大) 笹本明子 (白石藝大)
17:30 -18:10	金有美 (首都大学東京)	日本語指導が必要な外国人児童の学習支援 －東京都多摩地域の国際政策としての 支援を中心に－	日 姜美善 (漢陽女大) 閔陽子 (漢陽大) 辛銀眞 (明知大)

企劃発表・一般発表 【第1発表会場～第3発表会場】

第2発表会場 [恵化館 339]

■ 社會言語學・對照 座長：洪珉杓(啓明大)

時間	発表者	主題	使用言語	討論者	司會者
14:00 -14:40	村上敬一 (徳島大)	災害時における地域方言をめぐって	日	鄭炫赫 (Cyber韓國外大) 金鍾完 (全州大)	文彰鶴 (韓國外大)
14:40 -15:20	斎藤敬太 (武蔵野大) ダニエル・ロング (首都大学東京)	隣接する敬語・無敬語地帯の言語景観に 見られる待遇表現の違い ー福島県中通り地方と浜通り地方の 現地調査の結果を踏まえてー	日	白同善 (江原大) 峯崎知子 (弘益大)	趙宣映 (培材大)
15:20 -16:00	黄永熙 (漢陽Cyber大)	韓国人帰国生日本語の存在表現に関する 縦断的考察	日	南得鉉 (明知専門大) 孫京錫 (延世大)	吳京順 (Catholic大)
16:00 -16:10	休息				
座長：鄭相哲(韓國外大)					
16:10 -16:50	梅林佑美 (京都外国語大)	コーパス調査に基づく 助詞「에」における「ゆれ」 ー世宗コーパスデータの調査と分析を通してー	日	張元哉 (啓明大) 全紫蓮 (韓國外大)	李竣瑞 (聖潔大)
16:50 -17:30	河在必 (韓國外大)	現代日本語と韓国語の動詞・接続形の 脱動詞化に関する類型論的な対照研究 ー視覚活動を表す動詞「みる」「보다」の場合ー	日	方允炯 (水原大) 權城 (Hanbat大)	金平江 (祥明大)

企劃發表・一般發表 【第1發表會場~第3發表會場】

第3發表會場 [惠化館 342]

■ 語彙・音聲音韻 座長：閔光準(建國大)

時間	發表者	主題	使用言語	討論者	司會者
14:00 -14:40	大谷鉄平 (長崎外国語大)	宣伝文に用いられる語彙の商用的機能 -雑誌の記事見出しにみられる「注目」の場合-	日	具明會 (中原大) 持田祐美子 (平澤大)	鄭夏俊 (湖南大)
14:40 -15:20	佐藤亜里紗 (水原科學大)	有島武郎の作品における 外来語普通名詞の分類 -『有島武郎全集』第1巻から第3巻を テキストとして-	日	宋正植 (仁荷工專) 高草木美奈 (大眞大)	李羽濟 (白石藝大)
15:20 -16:00	陳宗福 (仁川大) 閔光準 (建國大)	한국인 학습자의 일본어 어두 유성파열음의 발음 습득 실태 -자발음성(회화음성)의 VOT를 중심으로- (韓國人學習者の日本語の 語頭有声破裂音の発音習得実態 -自発音声のVOTを中心に-)	韓	柳春善 (韓國外大) 高有眞 (祥明大)	酒井真弓 (徳成女大)
16:00 -16:10	休息				
座長：韓中瑄(U1大)					
16:10 -16:50	李京哲 (東國大)	中古音 多音字의 陽聲・入聲・陰聲의 互用에 관한 考察 (中古音の多音字における陰聲と入聲・ 陽聲の互用について)	韓	李知洙 (白石藝大) 白惠英 (東國大)	蔡京希 (培花女大)
16:50 -17:30	孫範基 (崇實大)	現代日本語の母音融合と口蓋化について -岡山方言の例から-	日	崔鉉弼 (Cyber韓國外大) 全美柱 (仁川大)	李東郁 (漢陽女大)

連繫協力研究會發表 【第4發表會場~第6發表會場】

第4發表會場 [惠化館 303]

韓國日本語研究會 14:00-18:00

司會：姜錫祐(Catholic大)		
14:00 -14:10	■ 開會	
14:10 -15:50	■ 新進研究者 博士學位論文發表 1：梁乃允 (中央大) 日本語中間言語におけるノダの特性 -仮説検証型研究の試み- (2018.2 中央大)	司會： 金惠娟 (建國大)
15:50 -16:10	■ 休息・參加者 交流	
16:10 -17:50	■ 新進研究者 博士學位論文發表 2：申義植 (韓國外大) 形式名詞と結合する助詞「を」の研究 -「中を」「のを」「ところを」を中心に- (2017.3 筑波大)	司會： 金賢娥 (高麗大)
17:50 -18:00	■ 閉會	

■ 連繫協力研究會發表 【第4發表會場～第6發表會場】

第5發表會場

[惠化館 304]

韓国OPI研究会

14:00-18:00

韓国OPI研究会 発表会 主題：OPI(口頭運用能力テスト)から学ぶ理論と研究		
14:00 -14:10	開会式・挨拶	
14:10 -15:30	【第一部】 OPIとは	■ OPIデモンストレーション 実際にOPIテスターが被験者に約30分のインタビューを行う ■ OPIデモンストレーションの被験者のレベル判定及び意見交換 ■ OPIのレベル判定と判定根拠の説明
15:30 -15:50	休憩及び参加者の交流	
15:50 -16:50	【第二部】 OPIから学ぶ理論と研究	■ OPIの理論について ■ ロールプレイ体験 ■ OPIを利用した日本語教育分野の研究
16:50 -17:30	【第三部】 OPIを活用した研究事例	■ 韓国OPI研究会研究助成プロジェクトの共同研究グループの発表 発表者：小島堅嗣・山中峰夫・後藤歩
17:30 -17:45		質疑応答
17:45 -17:55	総括	

■ 連繫協力研究會發表 【第4發表會場～第6發表會場】

第6發表會場

[惠化館 315]

日韓コミュニケーション研究会

14:00-18:00

司会：藤田智彦(関西大)		
	発表者	主題
14:00 -14:40	渋谷雅円 (立命館アジア太平洋大) 大池森 (青森中央学院大)	日韓のお金の「あげ方」に対する意識に関する考察 - 自身の両親、配偶者の両親へのお金の包み方を中心に -
14:40 -15:20	張良光 (カトリック大)	複言語複文化主義の視点を使用した研究
15:20 -16:00	中村有里(仁川大) 及川ひろ絵(弘益大) 藤田智彦(関西大)	親しい友人にものを借りる際のストラテジーの日韓比較
16:00 -16:10	■ 休憩	
16:10 -18:00	■ 交流会	

Poster Session

[未來融合Seminar室]

13:00-14:00

番號	主題	發表者	使用言語
P-01	縦断的コーパスに見られるテイナイ形の習得 -韓国語・中国語母語話者を対象に-	趙麗雲 (中国山東工商大)	日
P-02	南米ボリビアとパラグアイにおける日本系・沖縄系移住者の 日本語使用および言語混合状況について	ダニエル・ロング (首都大学東京)	日
P-03	大邱広域市における日本語景観の定点観測 -装飾から口語へ-	李舜炯 (慶北大)	日
P-04	言語接触史を言語教育に応用する試み -パラオ語の日本語起源借用語ブックレット作成-	高野駿 (首都大学東京) 今村圭介 (東京医科歯科大)	日
P-05	20世紀半ばのBambooEnglishにおける日本語の影響	崔承鎮 (首都大学東京)	日
P-06	NHKアーカイブスにおける中国残留日本人の 「帰国」と「日本語」の問題	甲賀真広 (首都大学東京)	日
P-07	モンゴル人日本語学習者による自文化説明の傾向と特徴 -「ゲル」はどのように説明されるのか-	渡辺真由子 (名古屋大)	日
P-08	沖縄における言語接触 -会話データを用いた量的分析-	新垣李加子 (首都大学東京)	日
P-09	原作の文化と社会現象はリメイク作品にどのように表れるか -「ハケンの品格」(日)と「職場の神」(韓)を中心に-	任炫樹 (帝塚山学院大)	日

地圖・交通案内

[동국대학교 찾아오시는 길]



① 주소・전화

☞ 새주소(도로명 주소) : 04620 서울특별시 중구 필동로 1길 30
☞ 기존주소(동 주소) : 100-715 서울특별시 중구 필동 3가 26번지
☎ 02-2260-3114

② 교통편

• 지하철 이용시

☞ 3호선 동대입구역 6번 출구 이용 ☞ 3호선·4호선 충무로역 1번 출구 이용

• 버스 이용시

장충동 (동국대 입구) ☞ 지선버스 : 7212 간선버스 : 144, 301, 420, 407
대한극장 앞 ☞ 지선버스 : 7011 간선버스 : 104, 105, 140, 463, 421, 507, 604

• 자가용 이용시 ☞ 모든 자동차의 출입은 '동국대 정문'으로만 가능

분당방면 : 한남대교 → 남산국립극장 400m 전방 → 동국대 정문
강남방면 : 동호대교 → 장충체육관 앞 사거리에서 좌회전 300m 전방 → 동국대 정문
용산방면 : 남산 2호터널 통과 후 좌회전 100m 전방 → 동국대 정문
동대문방면 : 장충사거리 200m 전방 → 동국대 정문

交通アクセス

① 住所 : 30, Pildong-ro 1-gil, Jung-gu, Seoul, 04620, Republic of Korea
☎ 02-2260-3114

② 交通アクセス

・地下鉄をご利用の場合

3号線 東大入口駅[Dongguk Univ. Station] **6番** 出口 中門方面

3号線・4号線 忠武路駅[Chungmuro Station] **1番** 出口 後門方面

・バスをご利用の場合 : 支線バス 7212, 7011

幹線バス 144, 301, 420, 407, 104, 105, 140, 463, 421, 507, 604

★ お車をご利用の場合 : すべての自動車の出入りは、正門のみ可能です。

☐ 懇談会 場所 ☐



『日本語学研究』論文投稿案内

■ 投稿規定

第1条 (学会誌発刊日程)

	学会誌発刊日	論文投稿締切日
第1回発刊	3月20日	前年12月31日
第2回発刊	6月20日	3月31日
第3回発刊	9月20日	6月30日
第4回発刊	12月20日	9月30日

①学会誌は上記の日程で年4回発刊する。

②投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

第2条 (投稿資格)

①原則的に本学会の会員に限る。

②会員との共同投稿者及び招請講演者、姉妹学会の会員、編集委員会の推薦による海外からの投稿者は例外とする。

③連携協力研究会において発表した論文は、本学会での発表と同一の資格を付与する。

第3条 (投稿対象)

一般会員は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。

第4条 (論文内容)

日本語学関連の論文として、既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならない。本学会の研究倫理規定に従わなければならない。

第5条 (掲載限度)

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。

第6条 (分量)

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とする。12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

第7条 (投稿論文受付)

①投稿者は本学会の論文作成要領に従って論文を作成し、学会のオンライン投稿システム(<http://jlak.jams.or.kr>)から提出する。

②投稿者は学会のオンライン投稿システムに会員登録する際、必ず本人の身分事項を記載しなければならない。

③審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。また、編集委員会の監査が記入の有無を確認する。

第8条（審査）

投稿された論文は審査規定に則り、オフライン編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の専攻研究分野を考慮し、オフライン編集委員会で決定する。但し、3人の審査委員には本学会の審査担当編集委員(査読委員)1人以上が必ず含まれなければならない。

第9条（審査料及び掲載料）

- ①審査料は1編あたり6万ウォン、掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。
- ②学会発表論文として認められる期間は発表日から2年以内とする。
- ③最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。
- ④審査料は論文投稿の締切日まで、掲載料は掲載用の原稿提出締切日までに入金する。

第10条（校正）

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

第11条（別刷本）

原稿料を別途で支払うことなく、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌2部と別刷本20部を贈呈する。

第12条（著作権）

受け付けた原稿は返還しない。また、投稿論文が学会誌に掲載された場合、当論文のオンライン及びオフライン著作権は本学会に帰属する。

第13条（その他）

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

<付則>

- ・この投稿規定は、2015年10月30日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2015年12月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2017年09月01日から改訂・施行される。

『日本語学研究』投稿要領

■ 投稿要領

1. 使用言語

論文は韓国語、日本語または英語で作成する。

2. 使用環境

原稿は ㄹ を使用して作成することを原則とし、 ㄹ で入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。但し、外国在住などの理由で、 ㄹ を使用できない場合はMSワードを使用して作成する。

3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。

4. 原稿分量

学会で規定した論文作成要領に従って、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けないことを原則とする。最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

- ① 論文題目
- ② 著者名:著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭に書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後に“(第1著者、交信著者)”と明示する。
- ③ 要旨:要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600字程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。(例: 論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)
- ④ 研究分野:二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中から選択し、明示する。
(例: 音声学(Phonetics)、音韻論(Phonology)、統辞論(Syntax)、形態論(Morphology)、意味論(Semantics)、語彙論(Lexicology)、語用論(Pragmatics)、社会言語学(Sociolinguistics)、日本語教育、(Japanese Education)、日本語史(Japanese History)、その他の日本語学 (Other Japanese Studies))
- ⑤ キーワード:二つの要旨に論文の内容を含みうる5つ以内の主題語を要旨と同一の言語で提示する。
- ⑥ 本文
- ⑦ 注:本文の内容を補充する必要がある場合、脚注を作成する。
- ⑧ 用例出典:原則的に用例の出典を明らかにする。
- ⑨ 参考文献:著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一の著者の文献である場合、著者名にする。

例) 高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」『日本語動詞のアスペクト』麦書房 pp.1-5
김정수(2003)「한일어 조사대조」『일본어학연구』제6집 한국일본어학회 pp.1-5
Rakoff,L.(1973) Language and Women's Place. *Language in Society*, NY: Harper Colophone Books, pp.1-5

6. 図及び表

すべての図は下段中央に、表は上段中央に <図1>、<表1>のように表示し、必ず題目を記入する。

7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。(例: <http://www.jlak.or.kr/> (検索日: 2014.3.20.))

8. 外来語表記

ハングル正書法の外来語表記法に従う。

■ 審査料及び、掲載料入金要領

【予稿集発刊費】

- 入金期限:学術発表の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)
- 金額:10,000ウォン

【審査料】

- 入金期限:論文投稿締切日
- 金額:60,000ウォン

【掲載料】

- 入金期限:掲載用原稿の提出締切日
- 金額:学会発表論文:一般論文(10万ウォン), 研究費受託論文(20万ウォン)
無発表論文 :一般論文(20万ウォン), 研究費受託論文(30万ウォン)
※但し、最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンを追加で負担する。

【入金口座】

- 口座番号:国民銀行 884201-04-150294 (李吉鎔)
- ※入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載すること(例:山田太郎 審査料)

【審査及び掲載用論文提出先】

本学会オンライン投稿システム(<http://jlak.jams.or.kr>)から提出する。

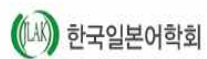
■ 論文作成要領

論文例示ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし、これに作成することを推奨する。

- 編集用紙の形式は以下の通りである。
 - 種類:使用者定義, 幅170, 縦240
 - 余白:上20, ヘッダー10, 下10, フッター0, 左15, 右15
- 論文のフォントは韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。

■論文題目	ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160
■副題目	ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160
■著者名	ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160
■要旨	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160
■論文分野	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■キーワード	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■大見出し	ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160
■中見出し	ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160
■小見出し	ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160
■本文	ポイント 9.5, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt
■引用文	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt (例文など番号がある場合、段落 アウトデント 12pt追加)
■脚注	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt
■参考文献	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt

* 学会ホームページの論文作成例示を参考にすること。



■ 학회사무국	■ 学会事務局
주소: 〒06974 서울시 동작구 흑석로 84 중앙대학교 아시아문화학부 이길용 교수 연구실 H.P : 010 · 9028 · 6609(사무국장:조용란)	住所: 06974 Seoul市 銅雀区 黒石路 84 中央大学校 アジア文化学部 李吉鎔教授研究室 携帯 : 010 · 9028 · 6609(事務局長:趙容蘭)
E-mail : jlak123@hanmail.net	Homepage : http://www.jlak.or.kr

ニュースレターでは会員の皆様の新規・変更等の情報をお知らせしています。
記事の掲載をご希望の方は学会の公式メールアドレス(jlak123@hanmail.net)までお知らせください。